

λ（ラムダ）プロジェクトに関する提案 2015

津軽海峡交流圏の未来を変える挑戦



平成27年7月

青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議

はじめに

北海道新幹線開業が約 8 ヶ月後に迫ってきた。この開業が津軽海峡交流圏形成の幕開けとすれば、今はまさに夜明け前である。

この提案集は、北海道新幹線開業を契機とし、津軽海峡交流圏形成を目指した取組「ラムダプロジェクト」を推進するエンジン役として、民間委員で構成する「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」がまとめたもので、今年で 3 回目の提案集となる。

これまでの提案を振り返ってみると、実に様々な提案がなされ、実行されてきたといえよう。ラムダ作戦会議のメンバーには「自ら汗をかく」という掟がある。この掟に沿って、各メンバーは提案を行うだけでなく、それぞれの分野で活動を行ってきた。たとえば、「青森県津軽海峡交流圏公開生バトル IN 函館」「津軽海峡マグロ女子会発足」など、メンバーが汗をかき、進めてきた活動である。

また、ラムダ作戦会議のメンバーだけが汗を流しているわけではない。この提案集の後半部分では、圏内の企業や団体、行政における取り組みを紹介している。この提案集は、すべてをラムダ作戦会議のメンバーが実行することを目指して発表しているものではなく、この提案集を読んだ圏民が、ここからヒントを得て自らの活動を起こすきっかけ作りになればという思いで作成している。その思いが通じているのか、メンバー以外の活動においても津軽海峡を超えた活動が活発になってきている。

人々の意識を変えることは難しい。しかしながら、あることに意識を向けさせることにより、なんらかの変化を生み出すことは可能である。ラムダ作戦会議を通じ、津軽海峡交流圏形成による地域の未来を提示することにより、確実に圏民の意識は変わってきたと考えている。津軽海峡交流圏を意識すれば、情報の交換が始まり、人々の行き来が始まる。それに伴い、モノも、経済も動く。こうして交流圏が形成されるのである。

冒頭で述べたように、北海道新幹線開業を津軽海峡交流圏形成の幕開けとすれば、今はまだ夜明け前である。しかし、いよいよ来年 3 月に夜が開ける。そしてそれは、ゴールにたどり着いたということの意味するのではなく、ようやくスタート地点に立てたということの意味している。

来年 3 月、圏民の皆様とともに夜明けを迎えることとなるが、この提案集が夜明けに向けて、そして夜明け後も活用されることを期待している。

■目次

I これからの活動に向けて～委員からの提案～ 3 ページ～42 ページ

青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議からの提案です。

面白く、楽しく、津軽海峡交流圏を盛り上げるために、皆さんの活動のヒントにしたいだけ
ると幸いです。

- 平成 27 年度提案…………… 5 ページ～25 ページ
- 平成 26 年度提案…………… 27 ページ～34 ページ
- 平成 25 年度提案…………… 35 ページ～42 ページ

II これまでの取組事例 43 ページ～85 ページ

津軽海峡交流圏の形成に向けたλ（ラムダ）プロジェクトに関する取組事例を紹介します。

III 関係資料 87 ページ～95 ページ

- 1 津軽海峡交流圏の形成を目指して～λ（ラムダ）プロジェクト～
- 2 青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議名簿
- 3 青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議の活動記録
- 4 北海道新幹線新青森・新函館北斗間について